

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成19年10月12日

【評価実施概要】

事業所番号	2871000671		
法人名	株式会社アクティブライフ		
事業所名	アクティブライフ山芦屋		
所在地	芦屋市山芦屋町9-18 (電話) 0797 - 25 - 7100		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成19年9月5日	評価確定日	平成19年10月30日

【情報提供票より】 (19年8月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年10月15日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	17人	常勤17人, 非常勤	人, 常勤換算17人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての	2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	378,050円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(300,000円) 無	有りの場合償却の有無	有 / (無)
食材料費	朝食	210円	昼食 420円
	夕食	円	おやつ 105円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (8月13日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	1	要介護2	10		
要介護3	5	要介護4	1		
要介護5	1	要支援2			
年齢	平均 83.2歳	最低	71歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	いとう内科
---------	-------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地の自然豊かな立地条件の中で、買物、散歩、地域行事への参加、などを通して地域に溶け込み、住民の方との交流が活発に行われている。ホームの1日の流れの中で、職員はご利用者の尊厳を尊重しながらひとり一人のペースに合わせ、自立した生活が過せるよう配慮し安心して過ごせる支援がなされている。家族が面会しやすい雰囲気作りを心がけ、訪問時に家族からの意見・希望を聴取しサービスの向上に反映させる取り組みを行っている。またご利用者一人ひとりの生活状況・身体状況・月刊、年間行事計画を介護レターで毎月家族に発送し、こまめな連絡を通してよりよい関係作りに努力をしている。各科の協力医の定期的な往診、年2回の健康診断、入居者一人ひとりの専属の歯科医による口腔衛生の管理、看護師による健康管理等行き届いた支援がなされている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4)
	前年度の評価結果を踏まえ、ヒヤリハット報告書の集計・分析の実施・サービス利用に関するアンケート・食に関する満足度調査等を実施し集計報告書作成、サービスの向上改善に取り組んでいる。市や地域住民との関りは地道な努力により増えている。
重点項目	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目: 第三者4)
	第三者評価受審により、自らのケアの振り返りを行い、改善の機会と捉えサービスの質向上につなげている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目: 第三者4, 5, 6)
	運営推進会議は、2ヶ月に1回実施している。推進会議の実施は、参加してもらいやすいよう行事と一緒にしている。ご家族・民生委員2名・包括職員の参加がある。ご利用者本人の参加については、状況にあわせて実施していくことを検討している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8)
	契約時に事業所の苦情担当窓口及び公的苦情申し立て機関の説明を行っている。家族からの意見・不満・苦情を運営推進会議・家族会で意見を集約し反映させる取り組みを行っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3)
重点項目	地域住民は長年居住している方が多く、地域を自分たちで支えたいとの思いから協力・交流が持ちやすくボランティアとして、ホームの行事への参加等で積極的な交流が行われている。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初より地域密着型としての役割を明確にした理念の基、職員は地域社会の中で役割の実践に取り組んでいる。夏祭り・餅つき、等行事へ地域の方の参加・支援を受けている。「トライやるウィーク」等実践している。市の認知症の見守り事業に参加して地域に貢献できている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関・各フロアに掲示すると共に朝のミーティングで唱和し職員間の共有を図っている。理念をが日々のケアに活かされているかをミーティング・ケース検討会議等で振り返り、理念の共有に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民は長年居住している方が多く「地域を自分たちで支えたい」との思いから協力・交流が持ちやすくボランティアとして、ホームの行事への参加等で積極的な交流がおこなわれている。老人会、コミスク、民生委員のつどいなどに参加している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>前年度の評価結果を踏まえ、ヒヤリハット報告書の集計・分析を実施している。サービス利用に関するアンケート・食に関する満足度調査を実施し集計報告書作成、家族へ配布している。また、食に関する調査結果は食事ミーティングを持ち厨房・調理に関して改善に取り組んでいる。第三者評価受審により、サービス改善の機会と捉えサービスの質向上につなげている。</p> <p>前回指摘のあった市や地域住民との係りは地道な努力により増えている。</p>		
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、2ヶ月に1回実施している。推進会議の実施は、参加してもらいやすいように行事と一緒に行うようにしている。ご家族・民生委員2名・包括職員の参加がある。ご利用者本人の参加については、状況にあわせて実施していくことを検討している。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域包括支援センターの職員には運営推進会議のメンバーとして参加してもらっている。芦屋市介護サービス事業者連絡会の理事としても市との連携を密にしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご利用者一人ひとりの生活状況・身体状況を介護レターで毎月発送し、こまめに連絡をすることを心がけている。又、年間行事計画を作成し連絡している。行事の写真は、家族が面会時に閲覧できるようにしている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>契約時に事業所の苦情担当窓口及び公的苦情申し立て機関の説明を行っている。家族からの意見・不満・苦情を運営推進会議・家族会等で集約し反映させる取り組みを行っている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>現在、職員のユニット間の異動はなく、ご利用者・家族と職員間は顔なじみの関係が築けている。職員の異動に関しては、事前の説明を行い、ダメージを最小限にするように配慮している。職員の交代時は1ヶ月間のフロア研修を経て業務に入っている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>本社研修センターでの研修を活用している。新人職員対象の現場研修・月1回のスタッフ研修を職員の意見を元に作成された年間研修計画に沿って外部講師・職員が講師となって実施している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内でのグループホームの連絡会は開催されていないが、他事業所との交流の機会を持ち交換研修を実施している。事業者連絡会の役員会に現在参加し同業者の集まりをもてるよう取り組んでいる。また、グループホームのみでの集まりについても検討中である。</p>		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>ご家族からの相談で職員がご自宅を訪問し話をゆっくり聞き、馴染みの関係作りをしている。利用申し込み者に対し施設見学・デイサービス利用を勧め自然な流れで入居に至っている。</p>		
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>ご利用者と職員が日常生活行動を共に行い、ご利用者の状況や背景をより深く理解し利用者ひとり一人の得意なこと・不得意なことにあわせて行動を支えあっている。</p>		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1.一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の希望や生活習慣を大切にし、利用者のペースで生活できるように支援している。自分から伝えられない利用者に対しては、日々の行動・表情から本人の訴えを推測するほか、生活歴やご家族の情報を参考にご利用者を中心にした視点で支援がなされている。</p>		
<p>2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>より良い暮らしをしていただく為に計画作成・立案時には、根気良く本人・家族の意向を聴取し計画立案するよう取り組んでいる。ケアプラン作成にあたり少しずつセンター方式の導入を検討している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ケース検討（フロアーミーティング）でご利用者一人ひとりに対して現状と問題点を確認し1ヶ月に1回は変化がないか検討し見直しの機会を持っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	通院介助・買物・美容院の外 出同行等個々の希望や状況に あわせて外出の支援を実施し ている。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切 にし、納得が得られたかかり つけ医と事業所の関係を築き ながら、適切な医療を受けら れるように支援している	利用者と家族の希望を聞き主 治医を決定し、受診の支援を している。協力医療機関の医 師の月1回往診により、疾病 管理・早期発見を図っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針 の共有 重度化した場合や終末期のあ り方について、できるだけ早 い段階から利用者や家族等な らびにかかりつけ医等と繰り 返し話し合い、全員で方針を 共有している	グループホームにおいての終 末期対応について検討を続け 職員体制・医療連携体制など を整えご利用者・ご家族の希 望に添えるよう取り組んでい る。生活リハビリ、個別の支 援計画等により重度化予防の 支援を行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシー を損ねるような言葉かけや対 応、記録等の個人情報の取り扱 いをしていない	職員全体の接遇は、穏やかで、 礼儀正しく利用者の尊厳への 配慮と温かさが感じられる。 個人情報保護やプライバシー への配慮も実践されている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、散歩のコースを選んだり、おやつの内容を決めたりしている。様々なレクリエーションが実施されているが、一人ひとり、個別に対応するなど、その人らしく過せるように支援している。毎月、お花見、美術館などやや遠くへの長時間外出の企画がある。 ・2007年2月には淡路島に一泊旅行に出かけた。 ・個別対応で京都などの遠方、なじみの街に出かける。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	見晴らしの良いダイニングルームで職員と共にゆったりと利用者のペースに合わせた食事時間を過ごされている。ご利用者の力量に応じて配膳・後片付けに参加されている。月に数回の昼食・おやつ作り・外食など、楽しみごとへの取り組みがある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に1回を基本として、ご利用者の安全性に配慮し希望にあわせて入浴支援している。入浴を拒否される方に対しても日や時間を変え働きかけ気持ちよく入浴してもらえるよう取り組んでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	年間企画としてお花見、美術館、一泊旅行など実施している。更にアセスメントにより、各利用者の生活歴や趣味を把握し、個々のご利用者の趣味や状況・希望にあわせ、ケアプランに沿って楽しみごとのプログラムメニューを提供している。また、スポーツレーナーによる個別対応で機能訓練を行っている。入居後の新たな楽しみごとにも参加できるようにさまざまな機会を提供している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節の花や自然が楽しめる恵まれた環境にあり、日常的な散歩、個別の買物・墓参り・ドライブ・外食など希望に応じて対応している。広いベランダを利用し、できるだけ外気に触れる機会が作れるように配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	立地条件的な面から安全確保のため、家族の了解を得て表の玄関は、施錠しているが館内はエレベーター・階段を含めて自由に行動できるようにしている。広いホールを挟み2ユニット間を自由に移動できるため閉塞感は感じられない。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を実施している。地域からも独居の方の非常・災害時に対応を依頼を受けなど協力体制を整えている。緊急時対応マニュアルの整備も出来ている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>管理栄養士によりカロリー・栄養バランスをチェックし食事・水分摂取量を記録している。日常的な観察により、各利用者の嗜好や嚥下状態、身体状況により、食事形態・カロリー等調整して提供している。</p>		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関までのアプローチや庭に季節の花を植え、訪問者が訪れ易い雰囲気への配慮が見られる。共用空間は、自然光が差し込み明るく清潔感がある。ゆったりとした空間になっており、気になる臭気もない。湿温度計、を設置し環境への配慮が見られる。2ユニットをつなぐ多目的室の空間・庭にも椅子、テーブル等思い思いに過ごせる空間も用意されている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご利用者が持ち込まれた使い慣れた家具や装飾品が入居者の好みに配置され、各居室に個性が感じられ、その人が安心してゆったりと暮らせる空間作りができています。</p>		

 は、重点項目。